

議 事 録

| | | | |
|------|--|------|----|
| 会議名 | 寒川文書館運営審議会 | | |
| 日 時 | 令和4年11月17日(木)13:30～15:30分 | 開催形態 | 対面 |
| 場 所 | 寒川総合図書館会議室 | | |
| 出席者 | 小川委員、内海委員、毛藤委員、中西委員、木場委員、名取委員 | | |
| 議 題 | 報告（1）『寒川文書館年報』15号 （2）令和4年度寒川文書館事業中間報告 議題（1）令和5年度寒川文書館主要事業計画(案) | | |
| 決定事項 | 報告（2）文書館年報の公表方法は保留となり、次回会議に諮ることになった。 議題（1）令和5年度文書館主要事業計画(案)が承認された。 | | |
| 議 事 | <p>開会</p> <p>・伊藤館長から、配布した名簿により、小中学校長会選出の委員の交代、文書館職員の人事異動の説明があったのち、全委員、および事務局職員の自己紹介を行った。</p> <p>・署名委員として、毛藤委員が選出された。</p> <p>報告</p> <p>（1）『寒川文書館年報』15号について 令和3年度の事業をまとめた『寒川文書館年報』第15号の原稿（資料1）について説明したところ、質疑は特になく了承された。</p> <p>（2）令和4年度寒川文書館事業中間報告について 資料2にもとづき、令和4年4月から10月までの事業の進捗状況について説明したところ、次のような指摘や質問があった。</p> <p>（委 員） 市内レファレンスの件数が、令和3年度は50件だったのに対し、今年度の10月末現在では17件と少なめになっている。この理由に思い当たることはあるか。</p> <p>（事務局） 理由はわからないが、年度後半に期待したい。</p> <p>（委 員） 視察の受入人数、データロガーの開始時期など若干補足をしていただくと良い。</p> | | |

(事務局)

最終報告では追記する。

(委員)

ボランティアについて、受入をコロナで中断していたが、まだ再開できていないとのことであった。その理由は。

(事務局)

閲覧席で作業をしていただいているが、一般の閲覧者に対し1時間制限でお願いしていることとのバランスをどう考えるか、内部で結論がでていないため、再開できていない。

(委員)

総合図書館とのバランスもあるだろうが、他市の図書館と比べると、寒川の図書館は除菌ボックスが未設置で利用制限が一部残っているなど、ちぐはぐな印象もある。

(事務局)

世の中がコロナに順応しながら活動していく傾向にあるので、ボランティアの方の意見も踏まえながら、検討していきたい。

(委員)

配布資料の最後に「参考資料」という欄がある。これはどういう意図で置いたのかを示しておく、よりわかりやすくなる。

(事務局)

昨年までは、開館以来の累計の数字をすべて本文に載せていたが、今回から本文には当該年年度と前年度が比較できるようにして、過去の数字は資料として後ろに回した。参考資料欄にはその旨を注記するようにしたい。

(委員)

町史研究の原稿をインターネットで閲覧できるようにするとのことだが、どのような経緯でそのような議論になったのか。また刊行後1年たってからの公開とした理由は著作権との関係があるのか。

(事務局)

町史研究は主要なところには送付しているが、より多くの人に読んでいただきたいので、インターネットで公開したいと考えた。しかし、冊子を有償で販売するものでもあるため、すぐに欲しい人は有償で入手してもらい、1年後からのインターネット公開という仕組みにした。著作権については、執筆時に手続きをする予定である。そのため1年後の公開と著作権は関係がない。

(委員)

新刊分の1年後の公開については編集委員会で承認したが、十分議論を尽くしたとは言い難く、既刊分の取り扱いは未定である。

(委員)

1年後になるにせよ、文書館の活動の成果を共有できるようになることは喜ばしい。いつかこれを、町史研究のバックナンバーに、そして他の刊行物にも広げていただきたい。

(委員)

「文書館年報」はこれまで独立した冊子で作成してきた。令和3年度の事業結果を載せる15号の内容についてはさきほど了承したところだが、これをインターネットで閲覧できるようにするとともに、町史研究に掲載する計画であると説明があった。これまでのやり方を変える意図はどのようなものか。

(事務局)

一つは紙の省力化である。もう一つは、単独の年報の冊子より町史研究のほうが配布先が多いため、町史研究に載せることで、より広く見ていただけると考えた。

(委員)

年報の冊子の発行をやめて、PDF化と町史研究掲載に変更することは、議題としてこの審議会で諮るべきなのではないか。

(委員)

昨年まで、町史研究と年報はそれぞれどのようなところへ送付していたのか。

(事務局)

町史研究は、全国の公文書館、県内の図書館や資料保存利用機関、全国の資料交換をしている機関、それに昨年からは史学科を設置している関東の各大学にも送付を始めた。年報は公文書館のみ送ってきたが、昨年度からは関係者のみの配布に留め、各機関にはインターネット上で見ていただくよう通知した。

(委員)

年報に関して、昨年、今年とあり方を変更することについて、この審議会で報告はあったか。

(事務局)

昨年の変更は報告していない。

(委員)

年報と町史研究、運営審議会と町史編集委員会との関係を確認しておきたい。

(事務局)

文書館の運営全般について審議していただくのが運営審議会、運営全般について記録し内外に報告するのが年報である。文書館の事業の一つに町史編さん事業が

あり、その刊行物の中身について審議していただくのが町史編集委員会である。

(委員)

町史研究の中身は町史編集委員会の所管だとしても、その発行の方法などは運営審議会でも把握する必要がある。年報についても、デジタルで閲覧できるようにしたから良しとするのではなく、デジタルにアクセスできない人のためにも当面は紙の印刷も必要であるし、年報の原稿を町史研究に移すというのも性急な気がする。デジタル化するには手順が必要で、安易なところから飛びつくだけでは良くない。10年、20年のロードマップを描き、長期計画のもとに実施すべきだと考える。

(事務局)

委員の皆さんからご意見をいただいたように、年報の公表方法の決め方が拙速であったことは否めない。そのため、本日のところは事務局としての考え方を示すことにとどめ、次回の会議でもう少し議論をしていただいた上で取り扱いを決定したい。

議題

(1) 令和5年度寒川文書館主要事業計画(案)について

資料3にもとづき、令和5年度の事業計画の骨子案を提案したところ、次のような指摘や質問があった。

(委員)

企画展のテーマの候補として、学校給食と関東大震災の2つを挙げているが、これは時期をずらして開催するのか、それとも会場を半々にして同時に開催するのか。また会期はどのくらいの期間を考えているのか。

(事務局) 期間をずらすか、同時開催かはまだ検討中で、それにより会期の幅もかわってくるので、熟考していきたい。

(委員)

寒川神社でも関東大震災から100年ということで「災害と神社」をテーマにした展示を検討している。お互いに資料を協力し合ったり、パンフレットを置き合ったりなど、協力関係が築ければと思う。

(委員)

寒川神社の記録は大変貴重で、町史にも多く使わせていただいた。学校にも当時の記録があるかもしれない。

(委員)

展示をぜひ学校の児童・生徒にも見てもらえるようにしてほしい。

(委員)

給食の展示については、資料の見通しはついているのか。

(事務局)

学校の資料としては、町史編さんの時に沿革誌を一通り調査させていただいたが、給食が始まったのは昭和30年代で、その頃の資料はあまり把握できていない。そのため、これから各小学校にお願いして調査をしていきたい。

(委員)

沿革誌というのはどのようなものか。

(事務局)

各小学校の成りたち、変遷を簿冊にまとめたもので、旭小学校のものが最も古い。マイクロフィルムで撮影しており、これを公開できるか学校に打診したことがあるが、実現には至っていない。

(委員)

沿革誌だけではなく、学校資料の全体像が把握できていないということなので、調査は必要である。

(委員)

こうした企画展を実施するのは、本来の公文書館の仕事ではなく、博物館の仕事かも知れない。しかし寒川には博物館がないので、そのような機能まで町民から期待されているのではないかと思う。

(委員)

文書館の展示は、どのような資料があるかを知ってもらい、広報的な役割がある。

(委員)

文書の中身を読んでもらうだけでなく、こういう文書の塊があるのだということをしかりと見せることで、文書を保存する機能をPRすることができる。これが博物館の展示と異なる点だと思う。

(委員)

事業計画の中で、役場職員用の利用案内を作成するという項目があった。これは大変意義のある活動と受け止めたが、具体的にどのようなことを計画しているか。

(事務局)

今年度に刊行する『寒川町史研究』で、職員の業務利用について分析した原稿を載せる予定で、その次のステップとして職員向けにアクションを起こしたいと考えたものだが、まだ具体的な手法はこれからの検討となる。町民向けには昨年度、広報で特集記事を組み、利用のPRを行ったので、その職員版ということになるかと思う。とりあえず町史研究ができればイントラネットで周知するというと

| | |
|-------------------------------|--|
| | <p>ころから始めたい。</p> <p>(委員)</p> <p>以前、図書館の企画展示「寒川にも戦争があった」のパネルを活用して、一之宮小学校の6年生に対し元教頭先生が授業をおこなったことがあり、児童の反応が大変良かった。学校から展示を見に来ることはあまりできないが、展示パネルを学校に巡回させたり、出前授業を実施したりしてくれればありがたい。特に関東大震災の展示は防災教育にもつながる。</p> <p>(委員)</p> <p>さきほどの中間報告では、学校で施設見学に来たのは1校だけだとあった。他の学校の児童にも、夏休みの宿題などに文書館が利用できる施設なのだということが知ってもらい機会を増やすべきではないか。</p> <p>(事務局)</p> <p>中間報告で示した10月末現在の実績は1校だったが、11月・12月に予定している学校もある。見学に来るのは2年生で、3年生になったら調べ学習が始まるので、その時に来館し利用してほしいと説明するが、3年生に対するフォローができておらず、連携は不十分と言わざるを得ない。</p> <p>(3)その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の会議は令和5年2月下旬に開くこと、日程調整は後日行うことが了承された。 |
| <p>資 料</p> | <p>次第および委員名簿</p> <p>資料1 『寒川文書館年報』15号</p> <p>資料2 令和4年度寒川文書館事業中間報告</p> <p>資料3 令和5年度寒川文書館主要事業計画(案)</p> |
| <p>記事録承認委員及び 議事録確定年月日</p> | <p>毛藤 まゆみ</p> <p style="text-align: right;">令和4年12月28日確定</p> |